

参加者アンケートでいただいた質問とお答え

委員を指名してのご質問についても、研究会の中で検討させていただきました。

【望月委員へ】自主防災会のあり方の解決について

基本的に別組織は、無駄なような気がします。しかし、地域によって地域の事情で認めてもよい。というスタンスはどうでしょうか。

お答え 別組織といった意味（表現）は一寸良くなかったと思いますが、上意下達でなく、自主的にボトムアップ方式にすすめる必要を感じています。また、単年ではなく継続して続けられる組織にしたいという意味で別組織と表現していました。もちろん、地域によって対応するようにならなければならないと思います。

【小宮委員へ】別紙文中“ 本当に患者を救う為に、先生達が助け合ってくれるといいな ” 「日本ホリスティック医学協会」(HP参照ください)のお医者達は、きっと対応してもらえます。

“若い時の貯金をつくって老後に” 福祉地域通貨(電子マネー)の創設で、子どもの頃に貯めて老後に使うことも可能になるのでは・・・

お答え 情報提供ありがとうございました。

後段についてですが、地域福祉通貨やエコマネーなどのように、地域福祉や環境保全のための貢献活動を電子マネーなどの形で貯めておいて、自分が必要なときにそれを使うといったシステムは、地域課題解決のための有効な手段の1つだと思います。システムとは言わないまでも、障害がある人を障害がない人を支える、若い人が高齢者を支える、というきちんとした役割分担ありきではなく、地域における人と人とのつながりを大切に、支え合い、学び合うことができる地域づくりについても市民協働で考えていく必要があるのではないかと思います。

【藤田委員へ】文中“人の心を育てることが第一歩である” 同感です。当方、精神保健福祉士です。コミュニティソーシャルワークの一環でお手伝いできることもあると思います。

“三世代” 福井県の子育て支援が成功しているように、日本の社会は欧米とは違って、三世代同居方向へ政策を転換すべきと私は思っています。

お答え 三世代同居という方向、また、それへの政策転換ということはともか

くとして、世代を越えて共に支え合い、育み合っていけるようなコミュニティづくり、それがまちづくりであり、家庭の中だけでなく、そんな支え合いのできる地域をつくっていくことが必要であると考えております。ぜひ質問者の方にも精神保健福祉士という知識、経験を生かして、地域の方々と協働してまちづくりに取り組んでいただければと思います。

地域での個別の課題解決への取り組みを、市全体での取り組みに発展させるステップは、こういったものが想定できるのでしょうか。ご教示ください。また、市全体の取り組みとなった際、個別地域での解決方法が、NPO等の規模等で市全体でも適用できるのかといった別の面の課題が出てくると考えますが、その際の解決方法はこういったものがあるのでしょうか。

お答え 地域での課題解決の取り組みを市全体の取り組みへ発展させるステップ、また、その担い手の問題については、研究会でも検討しているところです。しかし、全ての取り組みを市全体に広げる必要があるとは思いません。近隣少人数または個々の地域で解決することもあります。一方で、市全体での取り組みが必要なものもありますが、そのような取り組みは、地域力のレベルアップによって自然に広がっていくのではないかと考えます。いろいろな課題に対して、どういう範囲でどのように解決していくのかということも協働の中で考えていくものと思います。

パネルディスカッションの感想

コーディネーターの司会ぶりが大変すばらしかったと思います。また、他のパネルディスカッションでは、司会が下手で意見のキャッチボールができないことが多いので、感心しました。

雨中、参加者は何名だったのでしょうか。 お答え 約90名でした。

市長途中退席はいかななものか。市長がいないほうが意見が言える。確かに何事にもメリット、デメリットがありますから、考えようですね。

市民協働センターの設立、待っています。

市長さんにはパネラーの方の生の声を聞いていただきたかった。

皆さんの発表の時間がもう少しあるとよかった。

岩根委員の“子育て見守り隊”について興味深く聴きました。毎年900人の赤ちゃんが江南市内において出生しているが、その子育ては最近の核家族の中、大変なことである。江南市では少子化対策の一環として、4か月までの第1子を訪問する「こんにちは赤ちゃん訪問事業」が実施されているが、岩根委員の提案をより具体化し、行政と“子育て見守り隊”が協働して全戸訪問が実現で

きれば、江南市にとっても赤ちゃんを持つ親にとってもメリットは大きいと考える。

他の9人についても協働について深く考え、このような考え方が市内全域に広がっていけば素晴らしいと思った。

市民協働研究会が昨年6月2日から25回行われていたということだが、研究会としての具体的協働内容についても知りたかった。

パネルディスカッションを行うまで組織(中身)ができていないのではないかと感じました。協働を行っていくためには何が必要なのか、どのように形成していくのかから始めるといいと感じました。このディスカッションのポイントがぼけている。もう少し少人数のパネラーで構成したほうがいいと思う。

ボランティア活動は、協働ではないと思いますが、如何なものでしょうか。

市民協働条例の提案 理念、基本的な考え方には共感しました。具体的に何をやるか、したか、を次回は期待しています。

態勢を変えるのは、一步一步と再確認しました。

市民協働に関してわかりやすく拝聴させていただき、市民の活動について具体的に詳しく知る機会を得て視野が広まりました。

江南市をより住みやすい地域にするために、みんなが真剣に考え、好感がもてた。江南市を他にアピールするのに「住宅都市」として存在感を見直し、より魅力あるまちづくりのあり方を考える機会となりました。ありがとうございました。

具体性に欠ける提案(報告)が多く、多くの市民を巻き込んで運動化していくのができるか?不安を感じます。個々の課題への行動化ができていない。(H、I両委員を除いて)

構造改革路線内の行政主導(主唱)の協働研究とならないためにも、市民自治の原則での自治条例制定が先決ではないでしょうか。このままでは、センターづくりで一致するだけで、具体化は何年も先に!!

教育研究機関との協働研究が欠けているのでは?

自治会との協議の具体化をぜひ進めてください。自治会という組織についての検討、研究もしてください。

大変ご苦勞様でした。良い学習になりました。

スタートして1年間のまとめとしてのパネルディスカッションと聞いています。終着は何時か、また、どこに軟着陸するのか、見通したかった。ありがとうございました。

他市から参加された方の感想

市民協働研究会の人々が、様々な活動に取り組んでおられる事例を聞かせていただいていた有意義であった。

会場からの質問全てに回答されたことは大変評価できる。

市民の声をどこまで引き出し、ディスカッションや意見募集されるかが、今後大きな課題であると思います。

感情的視点と公共的（まちづくり的）視点が入り混じる中で、素晴らしい運営だったと思います。ありがとうございました。

本市も協働の指針づくりやまちづくり基本条例（自治基本条例）の策定を目指しています。市民の方々一人一人の活動実践を通して「協働」とは何かを考え、一つ一つルールをつくっていく真摯な姿が伝わってきて随分参考となりました。特にパネラーは、自分の活動に自信をもっておられたのは感心しました。

“地域で子育て” “孤育て”って初めて知った言葉です。子育ては母親だけの役目ではないのです。企業への働きかけ（残業の規制等）、父親の意識改革（飲み会の廃止、パチンコ・ゴルフ等の見直し）が必要であると考えます。

HPで経過を公開されていて、事前に勉強できました。大変良いことだと思います。

市民活動の発表会ではないのだから、協働によりどうメリットがあるか、今後の動きを期待する。